

第25回 軽井沢22世紀風土フォーラム基本会議

【日 時】 令和3年6月2日（水） 14:00～15:40

【場 所】 軽井沢町役場 第3・第4会議室

【出席者】 基本会議委員：石山武委員、鈴木幹一委員、須永久委員、
瀬川智子委員、高尾幸男委員、高橋浩志委員、
小林広幸委員、瀬原史織委員、鷹取健太委員、
森憲之委員、柳澤陽平委員

内 容

1. 開 会

事務局

これまで委員を務めていた荻原委員（町職員）が退任となり、後任に鷹取委員が就任した。

2. 会長あいさつ

会 長

コロナ禍のため会議傍聴が難しい状況であるが、会議のライブ配信が行われることとなり、大きな行動変容であると感じる。今後も新しい取り組みを行っていきけると良いと思う。

本日は今秋に開催を予定しているシンポジウムの企画について検討を行う。風土フォーラムの取り組みを広く発信し、次のアクションにつながる機会にしたいと考えているので、よろしく願いしたい。

3. 議事

(1) プロジェクトチーム（PT）の活動状況について

座 長

4月22日に開催した第5回会議において、大日向エリアでイベントを実施する方向性がまとまり、防災講座及び参加者同士の意見交換の機会を設けることとなった。防災講座の講師には、防災分野を中心に県内各地でも幅広く活躍している中橋徹也氏を招聘する予定で準備を進めている。大日向エリアでの講座等の実施に向けて、中橋氏、大日向地区との事前打ち合わせを行いながら、準備を進めていきたいと考えている。

A委員

中橋氏は白馬村で地域の助け合いマップの作成や更新に携わり、地震（2014年の神代断層地震）発生時の死者ゼロに貢献し、長野県知事から表彰を受けている方である。

(2) エリアデザイン検討の進捗について

委託業者

エリアデザイン検討では、地域会議で広く住民に意見を聞く取り組みが進められており、各地域で活発に議論が行われている状況である。今年度内に住民からの提言や施策に関してまとめていく予定である。

会 長

P T及びエリアデザイン検討において、まち歩き等のイベントが実施されていることは良いことだと思う。各活動における運営方法や課題等について、基本会議内でも情報共有を図ることができれば、今後の活動に活かせるのではないかと感じた。

(3) シンポジウムについて

ファシリテーター

事前に実施したアンケート結果や本日の会議で出された意見等を踏まえながら、6月下旬頃までに企画詳細案をまとめていきたいと考えている。

【開催趣旨/目的/ターゲット】

B委員

50、100年先を考えて未来を語ることが大切だと思う。住民自治という観点から、著名な先生方からだけではなく我々からも情報発信していく姿勢が重要なのではないかな。

将来の住民である若い世代（生まれた時からパソコンのある世代）が、将来に対して考えていることを発信していくことも重要ではないかな。

軽井沢はここ3、4年で移住者の多様性が加速している。新住民を巻き込みながら風土自治の発信ができれば良い。

A委員

まちづくり基本条例の「住民」をターゲットとし、「自らのふるさとを自らの責任で守る意識」を理解してもらい住民自身ができることを考えられるような機会としたい。

対話の機会が必要だと考えている。先日、第6次長期振興計画策定に係るワークショップ（以下「長振WS」という。）に参加して世代別の困りごとを聞かせてもらい、話し合いを通じて知れることの多さを感じた。風土自治が自然と生まれる土壌づくりを趣旨にできると良い。

町が発表したゼロカーボンシティに向けたロードマップは、全国の問題を考える人たちに対して良い形で波及している。ゼロカーボンをアピールする機会としても良いと思う。

C委員

エリアデザイン運営メンバーや地域会議参加者等をターゲットにすることで、参加者数を増やせるのではないかな。また、各エリアの活動状況報告を盛り込むことで、他エリアの活動を知ることができ、活動の刺激になるのではないかなと思う。

D委員

長振WSに参加している方もターゲットにできれば良いのではないかな。

E 委員

B委員とA委員の意見を上手くまとめて、具体的なアクティビティを大日向地区の活動で行えれば納まりが良いのではないかと。

次の世代である小学校高学年の児童が意見を述べられる時間が設けられると良いと思う。

【プログラム構成】

A 委員

軽井沢のゼロカーボンレベルを目指せると思われるので、町で進めてもらえると良い。

オープニングでは、小中高生から「軽井沢の暮らしで感じていること」を発表してもらうのはどうか。子どもたちがどうしたら軽井沢を好きになれるのかを一緒に考えていくことが、「ふるさと軽井沢」につながると思う。

ワークショップなどの語り合いの場が設けられると良い。

B 委員

オンラインフォーラムを実施してきた経験から、導入部分が重要だと考える。冒頭で基調講演が続くと視聴者に飽きられてしまうので、第1部は鼎談形式が良いと思う。

シンポジウム開催予定時期は、コロナの余韻があると考えられるので、一般の方はオンライン参加になると思われる。教育や環境等のテーマごとに部屋（オンライン上で）を設け、各参加者が興味のあるテーマの議論を視聴してもらい、後日全テーマの議論の様子を動画で見れるようにすれば良いと思う。

問題提起や軽井沢の現状をシンポジウム内で取り扱うとすると時間がかかってしまうので、事前周知の段階で発信した方が良いと思う。

会 長

総括では、風土フォーラムからのメッセージを発信して余韻を残すことが大切だと思う。全体のメリハリをつけるためにも、町内在住のアーティストを招いた

トークイベントや子どもたちが参加する時間を取り入れられると良いのではないかと感じた。

【基調講演】

B 委員

集大成ということ踏まえて、藤巻町長、中村名誉顧問、稲葉軽井沢病院副院長による鼎談を行い、強いメッセージを発信してもらえば良いと思う。講演の部分が勝負だと感じる。全体的にはジェンダーバランス（男女比率）を意識する必要があるのではないかと思う。

A 委員

『ドローダウン 地球温暖化を逆転させる 100 の方法』の著者であるポール・ホーケン氏を推薦したい。著書の内容では地球温暖化を逆転するための取り組み 100 項目が書かれているが、軽井沢ですでに実践されていることが多い。ホーケン氏には軽井沢に来て講演してもらいたい。

自然の循環について取り組んでいる矢野智徳氏も推薦させていただきたい。

F 委員

先日の長振 WS に参加したところ自然や住環境への期待が非常に大きいことを感じた。町が環境基本条例の制定に向けて動いている時期であることも踏まえて、「グリーンリカバリー」をテーマとして取り組むべきだと感じている。スピーカーには足立直樹氏や石井菜穂子氏を候補として推薦したい。

G 委員

ゼロカーボンの実現に向けた取り組みについて、企業ができること、住民ができることを紹介できれば良いのではないか。

H 委員

ターゲットが町民となるのであれば、アフターコロナの軽井沢についても触れられると良い。

I 委員

B委員から提案のあった鼎談により、「災害と自治」をテーマに自由に議論してもらえれば良いと思う。

E 委員

町で検討している環境基本条例の内容について知りたい。

C 委員

軽井沢の自然環境は先人たちの偉業であり、現在の環境を将来に引き継ぐために、軽井沢に関わる全ての人たちが協力していかななくてはならないという理念条例である。条例制定後、基本計画の検討も進めていく予定である。

E 委員

(軽井沢の自然環境に対して) 町が大きく舵を切ったということと軽井沢の強みを伸ばしていくという思いをアウトプットする場面が必要なのではないかと感じた。

【パネルディスカッション】

D 委員

長振WSのチームリーダーの方にパネラーとして参加してもらえると良いと思う。

B 委員

風土フォーラムは「住民自治」を目指してスタートした組織であるため、著名な先生は招かずに住民でつくるというのが軽井沢らしくて良いのではないかと。

A 委員

グリーンリカバリーで大切なのは、自然環境を守るだけでなく経済をどう回すのかという点である。森林をどのようにビジネスや産業にしていくかが重要であ

る。軽井沢産のお土産が少ないという声がある。軽井沢の松ぼっくりやモミの木など森林で生まれてきたものを加工品として販売するような森ビジネスをつくっていければ良いと思う。

【実施方法/プロモーション/開催時期】

C委員

シンポジウムは中央公民館での開催を予定していたが、新型コロナウイルスワクチン集団接種会場として使用されているため、大賀ホールでの開催が現実的かと思われる。

J委員

ハイブリッド開催を視野に入れ、パネルディスカッションをテーマ別で実施できると良い。

B委員

メイン会場を大賀ホールとし、その他の会場は高速Wi-Fiが使える町内のテレワーク施設を利用できれば良いのではないかな。

A委員

エリアデザインにもつながると思われるので、良いのではないかな。

ファシリテーター

開催時期についてはどうするか。

会 長

参加されるターゲットを意識して日程を組めれば良いと考えている。

E委員

シンポジウムの様子をアーカイブに残すのであれば、選択の自由度が上がると思う。ファシリテーターを中心に、曜日や時間帯を検討してもらえれば良いので

はないか。

ファシリテーター

事務局も交えて各種調整を進めていきたい。

会 長

本日は大変多くの意見を出していただき感謝する。皆さんの意見をもとに、シンポジウムの構成等についてまとめていきたい。

町 長

事前アンケートで意見をまとめていただいていたこともあり、シンポジウムの開催に向けた議論が一気に進んだように感じる。詰めの部分をどうするのが大切だと思われるので、皆さんの力で素晴らしいシンポジウムが開催されるよう進めていただきたい。

ファシリテーター

全委員にとって100点と言えるシンポジウムの構成は難しいと思われるが、これまで議論してきた「風土自治」について広く発信できるような機会としたいと考えているので、よろしく願いしたい。

5. 閉 会